

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2870701303		
法人名	株式会社ケーエスメディカル		
事業所名	ゼフィール白川グループホーム		
所在地	兵庫県神戸市須磨区白川台5-7-57 (電話)078-791-3296		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年4月17日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にあり、昨年有料老人ホームが増設され、充実した施設である。ホーム内は職員が利用者と一体となって生活に溶け込んでおり、落ち着いた雰囲気がある。人生を「一人ひとりの物語」として捉えるよう、研修も充実している。昨年の評価結果を基に話し合い、職員の意識の中にも課題はきちんと捉えられており、地域交流や家族会設立など改善に向けて努力している姿勢が見受けられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 昨年の評価結果を踏まえて改善すべき課題を具体的に話し合い、職員の意識の中にも課題は捉えられている。主に地域交流に力を注ぎ「ふれあい喫茶」の充実、「セントラルパークへの旅行」などが実現され、改善できている。家族会の設立ができている。職員の改善意識も高い。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 評価の意義や目的を理解したうえで、質の確保と向上に向け、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議は2~3ヶ月に1回開催している。ホームの紹介などの情報交換や災害時の対応や事故報告など課題発生時にはアドバイスを受けたりしている。利用者や家族、民生委員地域包括センター、知見者にも出席してもらい積極的な意見交換が出来ており、サービス向上に活かしている。第三者評価の報告も行い、課題について話し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の面会時、または家族の希望にあわせ手紙・電話やFAX・メールなどで利用者の状況報告時に、意見を聞いている。面会時に相談や意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けており、家族会も設立している。運営推進会議での意見等について運営に活かすようにしている。意見箱を設置し、意見や要望、苦情については委員会にて防止策を検討し報告するなど、体制作りが出来ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の小学校や中学校の行事に積極的に参加したり、夏の見守り活動、安全パトロールにも参加している。地域からの歩み寄りの姿勢が見られるようになって来た。「ふれあい喫茶」を開催して、独居老人に参加を呼びかけたり、散歩途中に手作りの招待状を手渡しするなど、地域との交流の機会となっている。

【情報提供票より】(平成19年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算	7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	25,725 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(390,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年12月11日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3		要介護4	2		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.55 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾原病院 花畑クリニック ファミリー歯科クリニック
---------	---------------------------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に添って、人生を「一人ひとりの物語」として捉え具体的に表し、ホーム独自の理念としている。		理念は今後見直し予定である。地域密着型サービスの意義を職員間で話し合い、地域や利用者のニーズ、現状にあった理念に作り変えられる事が期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を唱和し、各自の名札に理念を記入したカードを携帯し意識するよう取り組んでいる。理念を具体化するために、評価しやすい個人目標、年間フロア目標を設定し、定期的に評価するなど理念実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校や中学校の行事に積極的に参加し、夏の見守り活動、安全パトロールにも参加している。職員が地域の役員会に参加する予定もあり、地域からの歩み寄りの姿勢が見られるようになって来た。ホームが月1回程度「ふれあい喫茶」を開催。独居老人に参加を呼びかけ、散歩途中で手作りの招待状を手渡しするなど、地域との交流の機会となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や目的を理解したうえで、職員全員で自己評価に取り組んでいる。質の確保と向上に向け、昨年の評価結果を踏まえて改善すべき課題を具体的に話し合い、職員の意識の中にも課題は捉えられている。おもに地域交流に力を注ぎ「ふれあい喫茶」の充実、「セントラルパークへの旅行」などが実現され、改善できている。家族会の設立も行い、運営推進会議のあとに会議を開催している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は「そよかせ会」として2～3ヶ月に1回開催している。ホームの紹介などの情報交換や災害時の対応や事故報告など課題発生時にはアドバイスを受けている。利用者や家族、民生委員 地域包括センター、知見者にも出席依頼し、積極的な意見交換が出来ており、サービス向上に活かしている。第三者評価の報告も行い、課題について話し合っている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日頃より市へは細かく報告して考え方を伝える機会としている。運営推進会議の議事録も市に提出している。認知症介護研修等を通じて連絡や相談の機会もある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>家族の面会時に職員から声をかけ日常の様子や介護計画の更新について説明している。また、緊急時や家族の希望にあわせ手紙・電話やFAX・メールなどで利用者の状況を報告するなど細かく対応している。ビデオやホーム便りを利用し、行事や日頃の様子を見てもらう工夫もしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に相談や意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けており、家族会も設立している。運営推進会議での意見等について運営に活かすようにしている。意見箱を設置し、意見や要望、苦情については委員会にて防止策を検討し報告するなど、体制作りが出来ている。</p>		<p>昨年、家族会が設立されたばかりで、職員同席であったこともあり、率直な意見が出にくいこともあった。現在、運営方法を検討中である。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は職員の異動は殆んどない。ホームの都合での異動はしないよう配慮しており、職員の希望でやむを得ない場合には利用者・家族に混乱がないよう配慮して事前に報告したり、運営推進会議の場で伝達するように考えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会が中心となって年間の研修計画を立案している。外部研修は希望のものに参加できるよう体制が整えられており、研修後には文書にて報告し伝達講習も開催している。近隣の事業所が開催する勉強会にも参加する機会もある。新人職員の採用があれば、新人教育後、1年間プリセプターを取り、全体的なフローを行っていく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護研修の場として実習生を受け入れたり、近隣の施設から勉強会参加の受け入れなどの機会を通じ、サービスの質を向上できるよう取り組んでいる。近隣の介護施設での連絡会には参加している。		同業者とのネットワーク作りが実現され、管理者・職員が交流の機会を持ち、サービス水準の向上につながる取り組みに期待する。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学・イベント行事等への参加、状況に応じて職員の訪問や体験を行い、馴染みの関係が持てるよう配慮している。併設の有料老人ホームからの利用者の場合にも、日頃から、おやつの時間に共に過ごすよう工夫されており馴染みの関係を作っている。		入所後ご家族・ケアマネージャーの訪問や、散歩・なじみの場所へのドライブ・かかりつけ医師との関係を維持することで、安心して生活が出来るよう配慮している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「その人らしく、その人の物語の主人公として生活が継続できる」という理念の観点から、一緒に過ごす時間を大切に、支えあう関係となっている。利用者から教えてもらったり気づかされる場面もある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に入居者や家族の意向を聞き、また日常のかかわりの中からその都度、要望を知るよう「声拾いメモ」を利用して、利用者の些細な変化や表情・行動などを職員間で共有し、「利用者の思いの把握」に努めている。意思疎通が難しい利用者の思いを少しでも把握できるよう、家族と話し合うようにしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者や家族の要望を聞き、センター方式やKOMI方式を導入してアセスメントし、利用者の全体像を把握、計画に反映している。「私のサービス計画書」として利用者の立場にたったの計画立案もしており、本人本位の計画になるよう努力している。		利用者の全体像を把握するために、センター方式やKOMI方式を導入し、収集した情報を計画に反映させている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月に1回を基本とし、必要に適宜見直しを行なっている。日々のカンファレンスにて問題点の優先項目を評価したり、担当職員を中心に「声拾いメモ」をまとめ、話し合いを行なって計画の修正をしている。		利用者の状態変化のあるなしにかかわらず、1ヶ月に1回程度、介護計画が現在行なっているケアとずれがないか、利用者や家族のニーズの変化がないか等、新鮮な目で確認し、見直しが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診同行や「思い出めぐり」として一人ひとりに対して外出支援をするなど、希望にあわせ柔軟に対応している。長期入院の場合には面会に行き、医療関係スタッフとの連携も持ち続けたケアが出来るよう配慮している。医療連携体制を整えており、24時間の健康管理や医療活用の強化にも取り組んでいる。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医を受診する事を基本としているが、利用者や家族の希望により馴染みのかかりつけ医へ受診できる体制がある。家族が受診に同行する場合には「経過報告書」を作成して持参してもらい、返事または電話で回答をもらうなど連携をとっている。受診後の経過観察の報告も行なっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重症化したときの指針を作成し利用者や家族に説明している。『基本的な「看取り」の実施手順』によって、職員が行動し易いように取り組んでいる。終末期など必要時には主治医と家族が繰り返し話し合い意向を確認できる機会を持てるように配慮している。本人にとって良い方法を、その都度かわる専門職（介護・看護・医師・ケアマネ・理学療法士）が話し合い、ご家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや一人ひとりの尊厳を大切にしたケアを徹底している。職員には入職時に個人情報やプライバシー確保の契約書を交わし確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の心身状態を把握しながら、一人ひとりの生活リズムを把握し、その時々のお気持ちに沿った個別性のある支援を心掛けている。日々の暮らしの中の役割や行事への参加は強制せず、利用者の希望やペースにあわせて参加できるよう柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は外部業者に委託しているが、利用者の嗜好調査を行いメニューを考慮している。利用者の好みに合わせ、食材を交換する事も可能である。ご飯と味噌汁・盛り付けや後片付けは職員と利用者が一緒に行なっている。定期的に外食をしたり、テイクアウトで購入したものをテラスで食べるなど、普段と違った雰囲気楽しんで食事出来るよう工夫している。家族と一緒におやつ作りを楽しむ事もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ、深夜の時間帯を除いて対応している。同性介助を基本として、希望に添って行なっている。入浴が出来ない場合は、足浴や手浴・清拭等個別に対応している。姉妹での入浴や温泉気分を味わうため大浴場での入浴など、くつろいで入浴できる工夫もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じて無理のない範囲で発揮できる場面を提供している。外食やドライブ、旅行など、本や雑誌を見ながら利用者の希望を聞き、利用者本位の行事計画を立てるよう意識している。		認知症の進行に伴い、役割や楽しみごとの支援はむずかしくなっていく。「本人らしい楽しみごと」を重症化しても、支援していけるよう期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、毎日散歩に行く事が習慣化しつつある。日なたぼっこや買い物、週1回車で出かけるなどホームに閉じこもらない生活を目指し、実践している。帰宅願望が強い利用者に対しても柔軟な対応をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設備の構造上電子ロックが設置されている。夜間は安全面上施錠しているが、日中は玄関を開錠したり、ベランダにも自由に出られるように努力している。死角になり職員の目が行き届かない部分にはセンサー等を設置し、早期の対応が出来る様にしている。外出の希望がある場合には、職員が付き添う体制が作られている。		職員間でも空間拘束のデメリットを話し合う事は継続し、鍵をかけない時間や屋外へ自由に出られる時間が増やせるよう期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と共に防火管理安全対策委員会を設置している。有料老人ホームと連携し、消防署の協力を得て定期的に防火や避難訓練、夜間想定訓練など実施している。また、配属職員は順次、防火管理者を受講するようにしている。非常時や災害時に向けて運営推進会議や自治会に協力の依頼も行なっている。災害時の備品は業者がストックし協力してもらえる体制が整えられている。		運営推進会議などを利用し地域との協力体制作りが出来つつある。地域の住民の参加した形での避難訓練など、地域の方の協力体制がより確実なものとなるよう期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は高カロリーを基準に大まかに把握し個人記録に記載している。必要に応じて小さめにきったり、食材を変えてもらったりして対応している。体重の変化も捉え、状況に応じて看護師や意思に相談できる体制が整えられている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は台所で調理しているにおいや気配を感じられる作りとなっており、利用者が思い思いの時間を過されている。職員が利用者一体となって生活に溶け込んだ雰囲気もあり、会話やテレビの音にも配慮されている。和室の娯楽スペースがあり、みんなの気配を感じながらも一人になれる空間がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの家具や装飾品が持ち込まれており、個性を大切にしながら落ち着いて過ごせるよう工夫がなされている。持込が困難な利用者は、職員と一緒に考え寄付された家具などを配置し対応している。</p>		

は、重点項目。